



成果指標				
成果指標	上吾川ふれあい館の一日平均利用者数を20人以上とする。			
指標設定の考え方	自主的に健康活動を行う団体があり、みにふれあい館と比較して利用者の増加が見込まれるため指標を設定した。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目標	17	18	20	21
実績	17.6	20.9	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	利用団体の存在が利用者の増加につながっていることが伺えるため、他のふれあい館での利用団体の育成に向け、指定管理者に働きかけを行いたい。また併せて、三世代交流拠点として、幅広い年齢層による利用促進も図りたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	三世代交流のための中核的施設である。高齢者にとどまらず若年者との交流が図れるような企画・運営が望まれる。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	課題認識にあるとおり世代間交流を図るための方策を検討すること。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。